

船員の居住環境や労働環境を改善した 「労働環境改善船」が続々竣工

～内航船員の労働負担軽減で「働き方改革」を推進～

鉄道・運輸機構では、平成30年度より「労働環境改善船」の制度を創設し、共有船建造を進めてきました。その第二番船、第三番船が、3月28日に竣工しました(裏面写真)。

「労働環境改善船」は、船員の居住環境改善のために、居住区の騒音や振動を抑えるとともに、各部屋に独立した空調機能や船内 LAN・Wi-Fi を備えた船舶です。また、労働負担軽減の観点から、航海データや機関データを効果的に活用する機器(航海情報集約表示装置等)を備えています。これらの設備は、標準で装備されるケースも多く、一部の設備の追加で導入可能な場合もあります(追加費用約650万円という試算例あり)。

さらに、燃料としてA重油を専焼とすることにより、機関部の労働負担の軽減を図り、2020年からの硫黄酸化物(SOx)の排出規制強化にも対応できる船舶となっております。

鉄道・運輸機構は、共有船舶建造制度を通じて船内の労働負担の軽減を実現した船舶の普及・促進を図ることにより内航船員の「働き方改革」にも貢献してまいります。

【労働環境改善船:第二船・第三船の概要】

船名	第十五雄豊丸	第八鳳栄丸
共同建造事業者	(有)明栄汽船、田渕海運(株)	(有)鳳海運
オペレーター	田渕海運(株)	鶴見サンマリン(株)
船種	油送船兼ケミカルタンカー	ケミカルタンカー兼油送船
造船所	村上秀造船(株)／(株)カナサシ重工	興亜産業(株)
竣工日	平成31年3月28日	平成31年3月28日
総トン数	1,215GT	499GT

＜本件に関するお問合せ先＞

共有船舶建造支援部 技術企画課

TEL 045-222-9124

共有船舶建造支援部 建造支援課

TEL 045-222-9139

【第十五雄豊丸】



【第八鳳栄丸】

